

茨城県を舞台に関東ブロック DMAT 訓練

DMAT（災害派遣医療チーム）の関東ブロック合同訓練が17日、茨城県の医療機関などを会場に行われました。訓練には関東7都県のDMAT120チーム約600人が参加しました。

関東ブロック訓練は、コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となりました。17日午前3時に茨城県沖で震度6強の地震が発生したとの想定で訓練が開始。鹿嶋市から日立市にかけての太平洋岸で大きな被害があったとの想定で、城西病院DMATチームは隊員7人で午前7時に参集拠点本部となった笠間市の県立中央病院に駆けつけました。

参集拠点本部では、県立中央病院と県西メディカルセンターのDMATとともに本部活動を開始。午前9時10分ごろ、参集拠点本部から活動拠点本部へと役割が変わり、栃木県と群馬県から県立中央病院に集まったDMAT10チームを日立地域とひたちなか地域の活動拠点本部からの要請で派遣しました。

午前10時55分ごろ、活動拠点本部から水戸医療圏DMAT活動拠点本部に移行し、県内に置かれた5カ所の活動拠点本部や県庁などと連絡を取り合いながら、次々と寄せられた傷病者をDMATによって医療機関に搬送する指示を行う役割を担いました。

訓練の中では、医療圏活動本部となって次々と入ってくる被災者の搬送要請に応じて、医療機関に対して収容可能な人数や治療可能な分野などを逐次聞き取



り、県や搬送の任務に当たっているDMATと調整して搬送を決定するという業務を行いました。

訓練の中で、通信が十二分に確保できない、次から次へと押し寄せる被災者の症状に応じて、一刻でも早く搬送を開始し、病院で治療を受ける体制を作るなど、訓練の中で本部長やほかのDMATとともに試行錯誤を繰り返しながら、一人でも多くの被災者を救いたいという思いを強く、訓練に没頭していました。

2022年9月20日

